

令和元年度 第2回狭山市立博物館協議会 会議録

開催日時	令和元年12月13日(金) 午前10時00分から午前11時30分まで
開催場所	狭山市立博物館会議室
出席者	吉川克巳委員、鈴木眞澄委員、末盛玉玲委員、川口彰久委員、 細井弘子委員、高橋光昭委員、宮本剛義委員、濱田明美委員、 小峰孝男委員、千田道代委員
欠席者	なし
事務局	向野教育長、滝嶋生涯学習部長、田中社会教育課長、安井主査、 吉田主任 志水博物館長、入佐博物館副館長、アクティオ㈱山口担当
傍聴者	0名

※審議会前に委員に辞令の交付と正副会長の選出を行った。

議 題

1 令和元年度事業の中間報告について

令和元年度上半期に実施した企画展・主催事業・協力事業について、博物館長より説明し、質疑応答後、承認された。

質 疑

委 員：学芸員とボランティアのそれぞれの人数は。

館 長：学芸員が4名で、ボランティアが48名である。

会 長：「岩合光昭写真展ネコライオン」ではネコとライオンの生態や動物学的な進化を取り上げ、「ざんねんな昆虫展」では昆虫の種類・進化に触れ、さやまとつなん展では文様の類似性や違いを対比するなど学術的な観点が加わってきており、良い傾向である。

委 員：解説ボランティアの取組は、館長や学芸員の指導を受けながらリハーサルなどを行い、回を重ねる中で試行錯誤を繰り返し、参加者も増えてきている。やりがいもあり、今後も続けてもらいたい。

館 長：承った。

委 員：狭山の人が興味を持つということも念頭に事業を考えてほしい。例えば「岩合光昭写真展ネコライオン」では岩合さんに狭山を撮ってもらおうとか、「ざんねんな昆虫展」

では智光山公園の昆虫分布や生態の紹介だとかを企画展に盛り込むとか、地域を知りたい者にとっては嬉しい。また、「さやまつつなん展」では、土器の見ごたえはあったが、布や木製品など土器以外にも最近の縄文研究の範囲は広まりつつあるので、新しい切り口を紹介すると、より学術的要素を市民に還元できるのではないかと思う。

委員：「さやまつつなん展」に関して、最近土偶なども取り上げられることが多いが、土器に焦点をあてたのはなぜか。また図録はいくらで販売したのか。

副館長：土器に焦点を当てた理由は、狭山市と津南町で、共通して出土するものを比較して観て頂きたかったためである。なお、狭山市では縄文時代の有機物は出土しておらず、土偶も多くは出土していないので比較するには資料不足であった。

館長：図録は1,000円で販売した。

2 令和元年度の今後の予定について

令和元年度下半期に実施する企画展・主催事業・協力事業について、博物館長より説明し、質疑応答後、承認された。

質疑

委員：「日本刀の美展」において、居合いの演舞があると聞いたが、いつか。

館長：1月25日である。

会長：日本刀は分業作業の職人技であり、今回の研師に着目した展示には興味がある。収蔵資料の中にある赤羽刀は、国から貰い受けたもの。良質な刀であるのでこちらの展示にも期待している。

3 その他

令和元年度の空調設備交換工事について博物館長より説明の後、質疑応答があった。

質疑

委員：収蔵品への影響はどのように考えているか。

事務局：特別収蔵庫の収蔵品に関しては、個別空調になっているので工事の影響はない。一般収蔵庫の収蔵品は、暖房が止まるが、結露等しないように湿度の調整を継続するので問題はないと考えている。

委員：時期的には安定していると思うが、温湿度の管理をお願いしたい。

館長：承った。